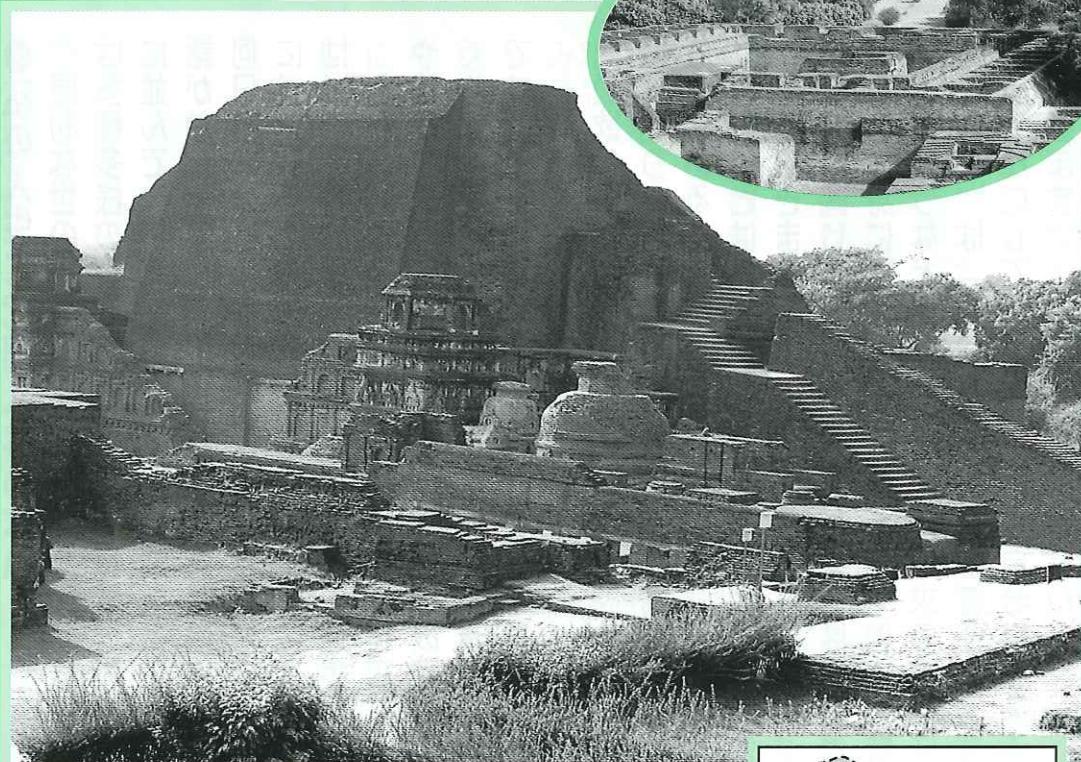


No.12 1999.3.15

身边なお寺の情報誌



ナーランダ大学遺構（撮影：開田蓮成）

世界最古の大学といわれるナーランダー寺院

ナーランダ大学は、5世紀にグプタ王朝によって創建された寺院であり、13世紀にイスラム教徒により破壊されるまで、仏教研究の一大中心地であった。インド全国からもとより、中国、南海からの留学僧も少なくなく、その集まる僧徒は数千といわれた。玄奘三蔵もここで学んだ。近代の発掘により、南北500メートル、東西250メートルの広大な地域の中に数基の大塔址と十基以上の僧院址が並ぶ大伽藍であったことがわかった。





法話

法に聞く 法に問い合わせる

早島大英 (宣正寺住職)

●私の人生に代理人はない

便利な世の中になつてきました。家庭で料理しなくとも、街には多種多様のレストランがあるし、一流ホテルの惣菜だって店頭に並んでいます。今、誰かと連絡をとりたければ、手元の携帯電話がかなえてくれます。東京→京都間は、親鸞聖人ご在世の頃は何日もかけて「身命をかへりみずして」までも旅をしたというのに、新幹線「のぞみ」に乗れば一時間十四分です。私たちの生活は、こうして便利さの追求によつて進歩してきたのです。

しかし翻つて考えると、便利さを追求するということは、目的や答えを獲得するために、私たちがみずから体を使つたり、じつくりと頭で考えたりするプロセスが省略されることもあるわけです。そこは注意すべきところでもあります。

「私の人生」に代理人はいません。「仏説無量寿經」に「人、世間愛欲の中にありて、独り生まれ独り死し、独り去り独り来たる。行に当たりて苦樂の地に至り趣く。身みづからこれを当くるに、代るもののあることなし」とあります。仕事などでしたら、代理人を立てることはできますが、トイレや食事は他人に代わつてもらうことはできません。

これと同じで、生・老・病・死をはじめとする人生の根本苦悩は自分自身に固有のものであつて、他人に解決の「答え」を提示してもらうなどという、便利さ追求の論理は通用しません。およそ「答え」は「問い合わせ」があるからこそ「答え」たりうるのです。おろそかにしてならないのは、自分自身の人生に対する「問い合わせ」であります。

●「問い合わせ」なくして「答え」はない

浄土真宗でよりどころとする三つのお経を、あらためて拝見しますと、いずれも「問い合わせ」が真実開顯の重要な意義をもつていています。

まず「仏説無量寿經」は、仏弟子アーナンダの問い合わせから、釈尊の説法が始まります。いつもと違う釈尊のご様子に、真実を問い合わせようとする、いわば「慧見の問い合わせ」が発端となります。また「仏説觀無量壽經」にしても、わが子によつて牢獄に幽閉されたイダイケ夫人が、苦惱の中から釈尊に対して救いを請うところから説法が展開します。イダイケ夫人の「愁憂の問い合わせ」がテーマとなつてゐています。ただ、三つめの「仏説阿彌陀經」は、釈尊みずからが一方的に語り始めたもので、誰かの問い合わせを背景とした説法ではありません。しかしながら、このお経にある「於汝意云何」（汝がこころにおいていかん）という語りかけが、何でもお膳立てが整えられた「答えの時代」の生活に甘んじている私には、「おまえの生き方はそれでよいのか」と、人生に対する問い合わせを喚起されるように響いてくるのです。

真実を求めようと問い合わせをもつ人にも、苦惱を縁として問い合わせをまつてきている私にも、如来のお慈悲がはたらいてくださるのであります。

阿彌陀如來の本願真実に、みずから歩みを問い合わせていく姿勢が、お念佛に生きる者として大切なことだと味あわせていただきます。

第二回 組内寺院巡拝行脚



※各活動に参加ご希望の方は、所属寺院までお問い合わせください。

慶弔覽

▼普請 川崎布教所 寺基移転
寿福寺「円通閣」落慶

集まり開催されています。今年は七月二十七日(火)～二十九日(木)、静岡県富士市『丸火少年自然の家』にて開校されます。子供の募集人数は百五十名を予定しています。詳細は所属のお寺までお問い合わせください。

■**神奈川組・仏教壮年会**

組内の各寺院から集まつた会員が活動に活動中。隔月の研修会を開催しました。昨年も『組内寺院巡拝行脚』が行されました。

組仏教壮年会では、好評だつた昨年に続き、今年度も組内寺院の参拝と地域文化にふれるハイキングを、さる9月12日(土)に挙行。組内各寺院から門信徒50名、僧侶5名が参加しました。

秋晴れのもと、集合場所の向ヶ丘遊園駅からスタートして、午前中は川崎市立日本民家園を見学。午後から組内の長念寺に参拝しました。同寺に伝わる、神奈川県重要文化財に指定されている桃山時代の屏風を拝見したり、江戸文化の粹を集めた本堂建築についての説明を聞き、いつも研修会等で訪れることが多いかったメンバーも、あらためて長念寺の魅力にひかれました。また、門前の梨園で地元名産の梨をもぎ取り、土産に持ち帰りました。さらに、終了後は希望者による懇親会がもたれ、盃を交わしながら足の疲れを癒しました。

神奈川組・仏教壯年会

組内の各寺院から集まつた会員が活
発に活動中。隔月の研修会を開催し
また、昨年も『組内寺院巡拝行脚』が行

二十七日（火）～二十九日（木）、静岡県
富士市『丸火少年自然の家』にて開校
されます。子供の募集人数は百五十名
を予定しています。詳細は所属のお寺
までお問い合わせください。

そのひとつに、「ご本尊阿弥陀如来を中心とした家族生活の形をととのうることも大切であります」と、具体的な生活実践をおすすめになりました。近年、核家族化が進み、仏壇は死者がない家庭には必要のないものだと用い込んでいる人が多いようですが、これは大きな誤りです。そもそも仏壇とは、死者のためにあるものなのです。どんな家庭においても、よろこびだけでなく悲しみもありますし、平穀た

そのひとつに、「ご本尊阿弥陀如来を中心とした家族生活の形をととのうることも大切であります」と、具体的な生活実践をおすすめになりました。近年、核家族化が進み、仏壇は死者がない家庭には必要のないものだと用い込んでいる人が多いようですが、これは大きな誤りです。

■第五期・連続研修会

も後半に 連研(連続研修会)は、 門信徒の皆さんに、浄土 真宗のみ教えを体系的に 学んでいただくことを目



神奈川組の動き

ときばかりでなく、困難な問題を抱えるときもあります。しかし、いついかなるときも、家族みんなが朝な夕なに仏前に座して、お念佛生活を送ることができるならば、これほどうるわしい家庭はありません。

阿弥陀如来の智慧と慈悲を仰ぐなかで、互いの喜びも悲しみも共にし、困難な問題をも共有していく生活にこそ、明るい人生が開かれてまいりましょう。

幸せな家庭とは、「ご本尊阿弥陀如來を中心とした家族生活」にあること、を、わが身に深く受けとめたいものであります。

「めぐみ会」は、組内各寺院の婦人

■第二十七回南ブロックお寺の林間学校 每年、神奈川・静岡・山梨三県から小学校三年から中学三年の子供たちが、毎年、昨年より”特養あそか園”へ介護に必要なタオルを寄贈することとなりました。各寺院の婦人会から集められ、昨年は約七百枚が寄贈されました。今年もご協力お願いいたします。

的に開催されています。九八年四月十八日（土）から参加者七四名で第五期がスタートしました。今年は全十二回（偶数月の第三土曜日）の後半になります。テキストは神奈川県で編纂されたものを使い、講義と班別の話し合い（法座）を中心に進められています。

■神奈川組・仏教婦人会連盟「めぐみ会」「めぐみ会」は、組内各寺院の婦人会の連盟です。毎年、総会・研修会を開催し、各婦人会の交流と親睦をはかっています。

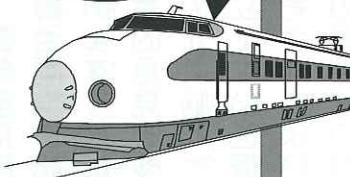
宗派の動き

■「法要御満座の消息」を「」発布

「法要御満座の消息」を「發布

特集「蓮如上人五百回遠忌法要 団参旅行に参加して」

新幹線 コース



期日	旅 程 表
6/11(木)	9:55 (新幹線) 新横浜 — (名古屋) — 12:22 (名古屋) — 京都 — ホテル
6/12(金)	ホテル — おあさじ — ホテル — 法要・御親教 — 京都 — (名神・北陸道) — 山中温泉 16:30頃
6/13(土)	8:00 山中温泉 — 吉崎御坊(別院) — 兼六園 — 17:19 米原 — (名古屋) — 新横浜 19:25

昨年、1998年(平成10年)3月14日より、京都本山において、10期100日間に渡り、「蓮如上人五百回遠忌法要」が厳修されました。昨年今回の法要では、神奈川組として各寺院から集まった500余名が参拝いたしました。

神奈川組では、6月11日より2泊3日のバスコースと新幹線コースの日程が企画され、各寺院が希望のコースを選択しました。別々の行程でしたが、本山での法要では合流し、一緒に参拝しました。

今回参加した門徒よりその感想をいただき、今回、特集を組んでみました。



バスコース



寂び寂びとした本願寺から、生涯をかけて大教団にまで育て上げられた蓮如上人のみあとを慕つて法要に参加でき、感激いたしております。山科別院の境内は、当時の本願寺のほんの一角にすぎないことを聞き、蓮如上人を慕つて訪れた当時の人々に私たちの姿を重ねて思いを新たにしました。二日目に訪ねた堅田の本福寺と浮御堂、前進座の『蓮如』の一場面を思い出しました。組の連研や仏社で面識のある方々など大勢のみなさまと一緒にでき、懇親会など楽しいひとときを過ごすことができました。

長念寺門徒 小林美登

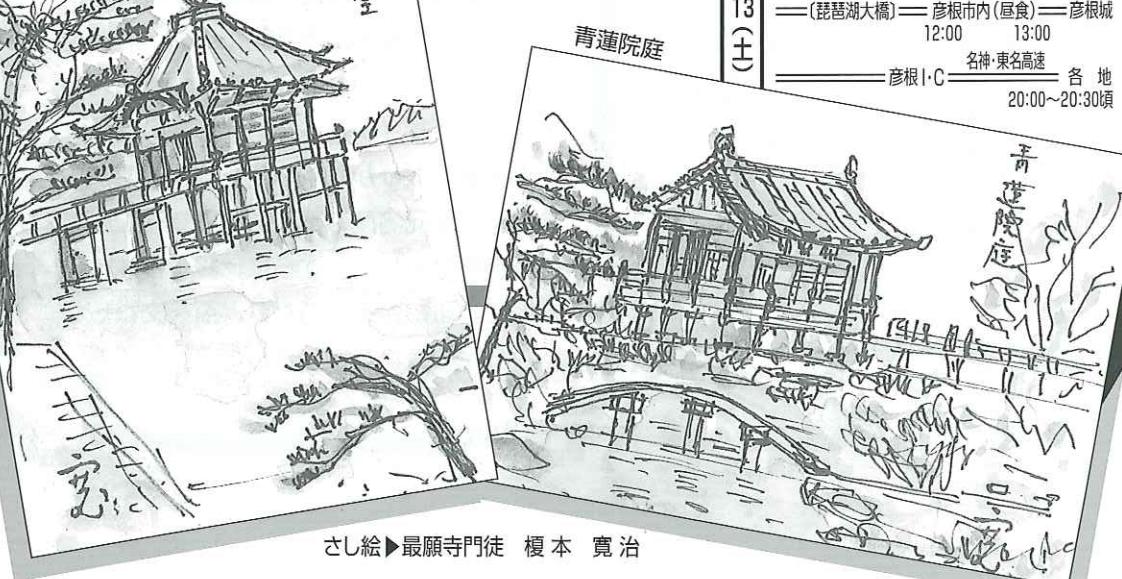
ご法要は、大勢の僧侶や雅樂を奏でる人たちの行列での入堂ではじまりましたが、これほど大規模でおこなな儀式は初めてで、とても感激しました。また堂内が椅子席にされていたので落ち着いてお参りができました。

善龍寺門徒 河野澄男



旅 程 表

期日	旅 程 表
6/11(木)	東名・名神高速 各地出発 — 京都東IC — 京都市内(泊) 7:00~8:00頃 15:00頃
6/12(金)	ホテル — ご本山(蓮如上人500回遠忌法要) — 9:00 10:00 12:00 — 京都市内(昼食) — 青蓮院(参拝) — 12:30 13:30 — 山科別院(参拝) — 大津市内(泊) 16:30頃
6/13(土)	ホテル — 堅田・本福寺(参拝)・浮御堂 — 9:00 — (琵琶湖大橋) — 彦根市内(昼食) — 彦根城 12:00 13:00 — 名神・東名高速 彦根IC — 各地 20:00~20:30頃



常念寺門徒 稲尾 信雄

にも、親鸞聖人七五〇回大遠忌法要是非参加したいと思いました。また、常に聖門の開かれた書院と飛雲閣を見学できました。このお同行のみな段非公開の書院と飛雲閣を見学できました。

光徳寺門徒・神奈川組仏社長 根本 猛

宣正寺門徒 佐野美智子

吉崎御坊山上より
山中温泉を後に、吉崎御坊に向かって庄第。蓮如上人と漁師との話、蓮如が二の話などを思い描いて、人生最高の喜びとするものあります。

蓮如上人五百回遠忌法要に初めて参加しましたが、厳粛な法要に初めて参加しましたが、普段非公開の書院と飛雲閣を見学できました。このお同行のみな段非公開の書院と飛雲閣を見学できました。

全国僧侶門徒によつて、十期百日間に渡り、厳粛盛大に報恩感謝の法要が當まれましたことは、この時代に生かされる者にとっては、人生最高の喜びとするものあります。

遠忌法要を通して、特に次の三つについて、身をただす思ひがしました。

(一) お念仏の声が小さくなつた。

(二) 各種教化団体の充実を願う。

(三) 話し合い法座の開設。

私たち浄土真宗の御同行として、課題ですべきことがあります。

東京教区仏教社年連盟の一員として、さうにみ教えが広まりますよう、努めていかなければならぬと痛切に感ずる次第です。

私たち浄土真宗の御同行として、課題ですべきことがあります。

人の死と臓器移植

臓器移植法が施行されてから一年と数ヶ月がたちました。

しかし、国内では未だに脳死による臓器移植は実施されていません。この法律は施行三年後に見直しをされることが約束されています。

本願寺派では、数年前に臓器移植に対して賛否両論併記の見解を示しています。ただし、最近では否定的意見を多く聞きます。人の死（脳死）がなければ成り立たない医療を倫理的にどう考えたらよいのか。脳死判定の信頼性の問

題（医療不信の問題）等です。脳死という状態は、人工呼吸器という医療機器によって出現した身体的状況です。脳幹の機能が完全に停止してしまっているにもかかわらず、人工呼吸器を使用することによって心臓を動かし、しばらくの間、臓器を機能させることができます。ですから、脳死が人の死と法的に認められれば、機能している臓器を摘出しても殺人にはならず、臓器移植を実施することができるのです。

日本で脳死による臓器移植が進まないのは、法律の不備を指摘する意見もありますが、むしろ臓器移植に対する社会的認知がまだなされていないと考えるべきだと思います。脳死については、現在では多くの人がその状態を正しく認識しています。脳死になつたら無意味な延命治療をすべきではないとの意見が多く聞かれます。ただし、脳死状態を人死とは考えずに、自然死を早く迎えさせてほしいとの思いです。

脳死による臓器移植が進まない中で、最近、生体間移植の話題がニュースで大きく取り上げられました。岡山大学で実施された母子三人による生体肝移植と、結果的に実施されなかつた熊本大学のドミニ移植です。どちらも脳死による臓器移植が進まない中の緊急避難的措置などの説明がなされました。「外国

ではこのような患者は移植手術によって助かっているのだ。人道的見地からも脳死による臓器移植を早く認めてほしい」との医療者側のメッセージが含まれていたような気がしました。

しかし、人道的見地から脳死による臓器移植の是非が論じられていることを忘れてはならないと思います。私たち

◆月にはウサギがいるの？◆

お釈迦さまの前世を物語ったジャータカと呼ばれる仏典に、こんな話があります。

満月をむかえる日に、一匹の善良なウサギが、バラモン（修行者）に施しをしようと、森に食物をとりにいくのですが、何も用意することができますませんでした。そこで、バラモンの前で、みずから火に身を投じ、施しをしようとするのですが、どういうわけか燃えません。実は、バラモンになりすましていたのは帝釈天（仏教の守り神）で、ウサギの求道心と勇気ある行動を見守っていたのです。帝釈天は、ウサギの徳をたたえ、近くの山をギュッと握りしめて、そのままに戻って、お月さまをみあげてみましょう。



法燈明



仏事のこころえ

[浄土真宗で使わない言葉]

「冥福を祈る」「草葉のかげ」といった言葉を弔辞や弔電で聞かれたことがありますか。その他、「天国」「冥土」などの言葉はどうですか。以上の言葉は、浄土真宗では使いません。浄土真宗では、お念佛申す身となられた人は阿弥陀如来のお救いによって、お浄土に生まれさせていただくと教えられるからです。

ですから、冥土(死者の靈魂が行くといふ暗黒の世界)での幸福、つまり冥福を祈つたり、死者が墓場のまわり(草葉のかげ)で迷うといふことは全く問題にしないのです。冥土での幸福を祈ること自体、死後、幸福になれないかも知れないといふ認識に立っていますから、浄土真宗では、そのような考え方のもとに使われる言葉は用いません。

浄土真宗で使わない言葉としては、まず「草葉のかげで」「黄泉の国」「天国」「冥土」があります。これらの言葉に対しては、「お淨土」「西方」「淨土」「極楽淨土」という言葉を使用します。また「永眠する」「眠る」「昇天」「旅立つ」「幽明境を異にする」「神のもとに召される」「往生する」「淨土に還る」に、「冥福を祈る」は「哀悼の意を表する」「慎んでお悔やみ申し上げます」でお悔やみ申し上げます。そして、「靈」や「御靈」という言葉も使いません。

『納棺夫日記』青木新門著 読んでほしいこの一冊
(文春文庫)

納棺夫とは、葬儀業の中で納棺を専門に担当する人。著者の造語である。その仕事の中で著者は阿弥陀仏にあらず。実体験の中から語られる浄土真宗のみ教えは圧倒的な説得力をもつ。専門用語の解釈では読みづらいむきもあるが、一気に読んで著者の全体の意図を読みとってほしい。

ちょっと息

「本尊は掛けやぶれ、聖教は読みやぶれ」

『蓮如上人御一代記聞書』

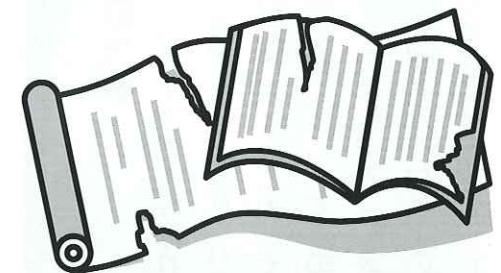
と蓮如上人は仰せられました。

大切なものの

ご本尊やお聖教(聖典・お経本)は尊く大切なもの、おろそかにできません。ましてや、紙の流通、印刷技術の発達していない上人の時代では、今よりもっと尊いものであったはずです。それを、「書きやぶれ読みやぶれ」とまで仰せになったお言葉の真意を尋ねてみましょう。

これは尊いものだから大切にしまいこんでは何の意味もない、使い込んでやぶれるくらいにしなさいというお心から生まれたお言葉で、仏法を常に繰り返し繰り返していただき続けなさいということです。

このことは、今の時代を生きる私たちにも同じことがいえると思います。仏さまのものは尊く大切なものだからと、丁寧にお仏壇のなかにしまい込みがちです。ご本尊やお聖教は使わせていただくほど、尊く意味のあるものです。もし、お経本などがお仏壇の引き出しなどにしまい込んでいたら、それを読みやぶるほどに使わせていただきたいものです。



身近な佛教語

我慢は美德といわれますが、実は「我慢」という語は煩惱のひとつを示す言葉であります。煩惱の中で、自分を高くみて他を軽視する思い上がりの心を「慢」といい、「我慢」はそのひとつなのです。すなわち、自分勝手な思いこみを押し通そうと強情を張ることが「我慢」であります。

ところが、その意志を貫こうとする面が、いつのまにかよい意味に解釈されたようで、今日では「我慢」は、こらえ忍ぶこと、自己を抑制することの意味で使われています。佛教にはもともと、耐え忍ぶことをあらわす言葉としては、「忍辱」という菩薩の修行徳目があります。これは困難なことや屈辱に耐え忍んで、怒りの心を起さないあり方です。自分でよければよいというたらわれや、自分こそが正しいとする思い込みを離れ、他の人々を思いやり認めていくとするとあります。要するに「忍辱」が悟りをめざした行動であるのに対し、「我慢」は迷いの行動であると、区別されるのです。耐え忍ぶことも、ひとりよがりの思いに固執すると、周囲に迷惑を及ぼすことになるというわけです。

我慢
がまん

私の出遇つた
この一冊

「他力」

五木寛之 著
(講談社)

F.M.

最後は<他力>

浄土真宗において<他力(本願)>はもっとも大切な教えのひとつです。しかしながら、現在はこの他力という言葉が一人歩きをして、本来の正しい使われ方を殆どされていません。

著者である五木寛之氏は「他力という言葉に、宗派を超えて現代人すべての心に働きかける激しく大きな力を感する」というように、宗門という枠にとらわれず、自ら法然上人・親鸞聖人・蓮如上人から学び、現代における自分なりの他力の解釈をしています。その解釈が正しいとか、正しくないということを論することは、あまり問題ではないと思います。

「結局、最後のところは、やはり<他力>ということなんだろう」という著者の言葉に、私は共感するところが多いからです。

また本書は、医療・少年犯罪・経済など100のテーマによって、それぞれ別の視点からこの他力を捉えています。

本書の中で、私が最も注目したのは、「私は、これまで長く『死ぬレッスン』とでも言いましょうか、あるエクササイズ遊び半分にやってきました。寝る前に、明日、目が覚めないとしたら、それでいいだろうか、深呼吸をしながらじっくりと考える。朝起きたら、今日が最後の一日になるんだぞと、自分に言い聞かせるようにしてきました」

私は、知り合いの老人が「私は朝目が覚めると、今日も目を覚ますことができた。ありがたいなあ。」と言っていたのを思い出しました。

夜寝れば、朝目が覚めることはあたりまえであると大半の人が思っているのではないでしょうか。しかし朝目がさめないことも、可能性としては0%ではありません。本書やこの老人の言葉から、自分の命すらも思うようにならない。「結局、最後のところは、やはり<他力>ということなんだろう」という思いにつながるのです。

本書を通して疑問でも、感動でも、共感でもいい。何か自分が生きて行くヒントがえられるのではないかでしょうか。

『五体不満足』乙武洋匡 著 読んでほしいこの一冊

ラジオなどでも宣伝されている本なので、今更紹介の必要もないかもしれない。ラジオから流れた著者の乙武さんの声。「感動は求めません。参考にしてほしいのです」生まれながらの障害をもった著者が、ものごころついた時から経験して思ったことを素直に書かれているので説得力がある。障害を持つ人に普通に接することができるようになる「参考書」である。

お寺を訪ねて(11)

壽福寺は港北ニュータウンの中ほどに位置し、10年前に伺った頃はまだ緑も多く、自然に囲まれたお寺でした。しかし開発の波が押し寄せ、現在は住宅街の中にそのお御堂が佇んでいます。

港北ニュータウンの開発で、壽福寺周辺の自然が少なくなりましたが、寺周辺に新しい住民が増えたことで、お寺と地域住民との新しい繋がりがひろがりました。多田龍空住職さんは、「開発でまったく新しくなった地域でのお寺の役割を重く感じます」と言われます。

その役割を果たしていく第一歩として、当寺の飛び地境内にある観音堂(壽福寺から西800メートルの茅ヶ崎城址の一角)の隣に、1998年7月壽福寺第二本堂「円通閣」が建立されました。円通閣は、市営地下鉄センター南駅に近く、地の利に恵まれています。昨年9月より、永年の願いであったという「仏教文化講座(毎月第2火曜日・午後1時半~3時半)」がここで開講されました。講師には宣正寺前住職、東京大学名誉教授、早島鏡正師をお迎えし、「教行信証に聞く」という題で講義されています。参加者の皆さんには、分かりやすく、ウイットに富んだ講義を楽しみにしているそうです。どなたでも受講できます。お問い合わせ・申し込みは、壽福寺までご連絡下さい。

また、「117の会」という会がお寺にあります。阪神・淡路大震災を教訓に、スタートしたちょっと変わった会です。17、8歳の青年を中心に、毎月17日の午前5時半にお寺に集まり、ご飯を炊き、梅干しでおにぎりをつくり、ボランティアなどの話し合いを続けているということです。

「何かをしたいという気持ちをもつ地域の人たちが、仏教をバックボーンに持って、お寺をその活動の場としてくれれば、こんなにすばらしいことはない。その思いを、お寺の一つの方向性としていきたい。地域に根ざすお寺として、今後も様々な活動ができればと思っています」と住職さんは話してくださいました。



一港北ニュータウン の中のお寺一

じゅ ふく じ
壽福寺

(横浜市都筑区茅ヶ崎東1-7-1)

ポストエイオス研究会
インターネットのホームページを開設。
法話や仏教情報などのページです。
<http://www2s.biglobe.ne.jp/~posteos/>

ビハーラ電話相談
—老いの悩み、病の苦しみに—
相談日
毎週月・金／午後2時~5時
淨土真宗東京ビハーラ(築地本願寺内)
TEL.03(5565)3418



テレホン法話
電話で仏さまのみ教えを!

- 築地本願寺こころの電話
TEL.03(3541)0282
TEL.045(662)5629
- 長念寺テレホン法話
TEL.044(911)8282

お手々のしわとしわをあわせて…しあわせ

日本の美・日本の心をお届けします。



業界初の上場企業
関東地区84店舗・全国で129店舗

~お仏壇、お仏具等~
特別割引
大ご奉仕中!!

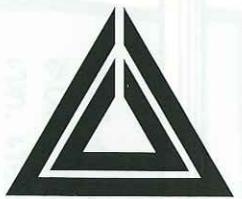
墓石・霊園も
好評お取り扱いしております。

しあわせ少女たばさちゃん

横浜・川崎地区的店舗ご案内

金沢文庫店	横浜市金沢区谷津町352-7 オオサワビルズ1F	0120-876-768
上大岡店	横浜市港南区日野5-1-25	0120-767-628
戸塚店	横浜市戸塚区柏尾町440-1	0120-767-627
今宿店	横浜市旭区今宿東町1621	0120-767-658
新杉田店	横浜市磯子区杉田1-2-3	0120-484-883
長津田店	横浜市緑区いぶき野3-1	0120-744-194
鶴見駒岡店	横浜市鶴見区駒岡町4-23-4	0120-176-761
日吉店	横浜市港北区日吉3-4-8 リバーサイド日吉	0120-639-010
鷺沼店	川崎市宮前区東有馬1-1-19	0120-876-768
川崎店	川崎市川崎区東田町2-1	0120-767-577

営業時間／午前10時～午後7時 日曜・祝日も営業いたしております。



昭和59年 京都西本願寺阿弥陀堂
昭和62年 京都清水寺開山堂御厨子
三重塔堂内修復事業
昭和63年 福岡証券取引所
業界初の株式上場
平成6年 大阪証券取引所第2部
株式上場

製造部
(株)はせがわ美術工芸
(国宝美術品、寺院神社)
(株)長谷川仏壇製作所(純金箔仏壇)
江川木工(株)(唐木仏壇)
(株)長谷川唐木仏壇製作所(唐木仏壇)



浄土真宗本願寺派 神奈川組

えんこうじ 円光寺	〒210-0814 川崎市川崎区台町4-21 石川 康承 044-266-2677
ほうえんじ 宝円寺	〒210-0838 川崎市川崎区境町5-10 飯田 琢亮 044-222-3941
こうとくじ 光徳寺	〒210-0848 川崎市川崎区京町1-14-3 林 信順 044-333-3997
じょうらくじ 正樂寺	〒210-0916 川崎市幸区南幸町2-49 佐々木俊博 044-522-1961
こうがんじ 高元寺	〒211-0051 川崎市中原区宮内4-3-12 宮本 義孝 044-777-6544
ちょうねんじ 長念寺	〒214-0014 川崎市多摩区登戸1416 小林 泰善 044-911-2549
じょうねんじ 常念寺	〒215-0033 川崎市麻生区栗木203 古市 道仁 044-988-0205
ぜんりゅうじ 善龍寺	〒221-0811 横浜市神奈川区斎藤分町33 斎藤 幸紹 045-491-9431
ぜんきょうじ 善教寺	〒223-0057 横浜市港北区新羽町2396 平等 勝尊 045-541-7684
きょうがくじ 教覚寺	〒223-0057 横浜市港北区新羽町2395 平等 真証 045-531-5050
こうりんじ 光輪寺	〒223-0064 横浜市港北区下田町3-2-9 村石 恵照 045-561-8671
とうぜんじ 東善寺	〒224-0001 横浜市都筑区中川7-18-29 長谷尾芳雄 045-911-3509
ちょうとくじ 長徳寺	〒224-0015 横浜市都筑区牛久保西3-9-1 平塚 大乗 045-911-7351
じゅふくじ 寿福寺	〒224-0033 横浜市都筑区茅ヶ崎東1-7-1 多田 龍空 045-942-3721
さいじょうじ 最乗寺	〒224-0034 横浜市都筑区勝田町1277 日野 教昭 045-941-3541

かながわそ
「神奈川組」とは…

私たちの教団（浄土真宗本願寺派）は、全国に一万余りの寺院を擁し教団独自の地区割をしています。その一番小さな単位を「組」といいます。神奈川組は、川崎市と横浜市中部と北部の寺院によって構成されています。

浄土真宗本願寺派東京教区神奈川組

組長／林 信順
副組長／斎藤 幸紹 相談員／早島 大英
教区会議員／曾我 求真 金子 貞夫（門徒）副組長／小林 泰善 相談員補佐／宮本 義宣

一茶の俳句から

小林一茶は、みずからを「念佛坊」と稱し、淨土真宗の信仰で築いていました。とくに、郷里の信州柏原に戻つてから晩年にいたるまでは、念佛生活からだじみ出た句を多く詠んでいます。

一茶が『おらが春』の末尾、年の暮れの一十九日に

ともかくもあなた任せの年の暮れ

これは有名な句ですね。「あなた任せ」といふのは、どうでもいいんだといふじゃなくて、「あなた」といふのは阿弥陀如来のことをいふのです。どんなに貧乏であつても富んでいても、高ぶることもなくひがむこともない。ありのままに年を越していくましようというのですから、とらわれのない年の送り方です。櫻(さくら)てふためかないといふのです。だから「ともかくもあなた任せ」と、阿弥陀如來の本願にお任せをしている自分をから、じたばたしないといふのです。ただなんにもしないといふのでなくて、永遠の生に生きることが約束された自分だからこそ、この世でじたばたしないんだと、安心・安堵して何でもやつていけるんだといふ。そういう意味で「あなた任せの年の暮れ」と、こういうことになるんじないでしようか。

早島鏡正著『念佛一茶』
四季社刊より

編集後記

一九八六年六月に父が、明けて一月に祖母がお浄土に還つていきました。厳しく悲しき縁でした。

常日頃、トゞの世は無常であり、生あるものは必ず死の時をむかえる」と聞いていました。が、いざとなると悲しみは耐え難いものでした。

しかし、今ではこのじ縁は、私にとっての大切ないのちの学びの場であったと思っています。

南無阿弥陀仏のお念佛のなかに、父がまた祖母が、「仏さまのお慈悲に気付けよ、目覚めてくれよ」と働き続けてくださっていると、味あわせていただいています。



浄土真宗本願寺派（西本願寺）

横浜市都筑区勝田町1277
最乘寺
〒224-0034 電話 045-941-3541

組報かながわ No.12

■発行日 1999年3月15日
(毎年1回3月発行)

■編集発行 浄土真宗本願寺派
東京教区神奈川組
基幹運動推進委員会

〒210-0848 川崎市川崎区京町1-14-3 光徳寺内